

---

## 故郷の景色がいつまでもあり続けるように

日本大学 生物資源科学部 動物資源科学科 4年 中原 あかり

---

### 1. 非農家出身者が酪農家になるには

私の故郷は、北海道宗谷管内の東南に位置する中頓別町<sup>なかとんべつちょう</sup>という、人口約2,000人の小さな町です。中頓別町では酪農業が盛んに行われており、私は幼い頃から広い牧草地を自由に歩き回る牛たちの姿を見ながら育ちました。しかし、酪農が身近であったにも関わらず、私は酪農に対し、興味を持っていませんでした。そして、酪農について何も知らないまま、私は高校進学を機に中頓別町を出ました。そんな私が酪農に興味を持つようになったのは、大学に入ってからのことです。大学1年の時に大学内の牧場で実習を行ってから、酪農に興味を持ち始め、大学2年の夏期休暇中、約1ヶ月間、北海道の2軒の酪農家さんのもとで住み込みの実習を行ったことで、本格的に酪農の魅力にとりつかれました。実習は朝が早く、大変な仕事も多かったですが、実習を終えた後思ったのは、「酪農とは楽しい仕事なのだ」、というものでした。実習を行う前の私は、酪農業はただ辛いだけの仕事だと思っていましたが、実習後には確かに辛い仕事ではあるが、それだけではなく、やりがいのある、生きがいの感じられる仕事なのだと思うようになっていました。

そんな経験から酪農に興味を持ち始めた私は、ある疑問を抱くようになりました。それは、酪農家になるためにはどうすればいいのか、というものです。家が酪農を営んでいる場合は、その家業を継げばいいですが、私の家は酪農を営んではいません。そんな私のような非農家出身者はどのように酪農家になるのか。それを調べているうちに行き着いたのが「新規就農」という言葉でした。

新規就農とは、文字通り新しく農業を始めることで、農家出身者が高校や大学を出てすぐ就農する「新規学卒」、農業以外の職業に就いた後農業を始める「Uターン」、農家以外の出身者が就農する「新規参入」があります。ここでは、非農家出身者が就農する「新規参入」を新規就農とすることとします。

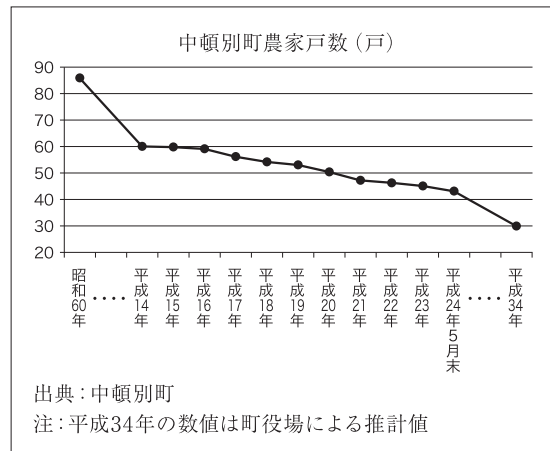
### 2. 中頓別町における新規就農

私は新規就農についてさらに理解を深めるため、故郷である北海道中頓別町における新規就農について調べることにしました。調査方法は、中頓別町で新規就農された方、中頓別町役場、JA中頓別町、新規就農者の実習を受け入れた農家の方々を対象に、直接面接法による聞き取り調査を行いました。

中頓別町は昭和31年頃から酪農に力を入れるようになり、現在酪農を基盤産業としています。しかし、全国的に酪農を取り巻く環境が厳しい今日、中頓別町の酪農も例外では

---

ありません。農家の高齢化、担い手不足から離農農家が増加し、昭和60年に86戸あった農家数は、平成24年5月末には43戸にまで減少してしまいました。さらに今後も離農農家は増え続けると思われ、定年を農業者年金受給が始まる65歳と考えた場合、10年後には農家戸数は30戸にまで減少すると言われています。そうならないために、これ以上農家戸数を減らさないために、既存農家の後継者育成はもちろん、新規就農者の受け入れが必要不可欠となってきているのが現状です。



しかし、現在の中頓別町の新規就農者数はたったの1戸。中頓別町初の、唯一の新規就農者である村田克明さんは、昨年11月に就農を果たされました。村田さんは就農前、東京で普通のサラリーマンをされていたそうなのですが、酪農をやりたくて4年前に奥さんと子供たちを連れ北海道へやって来たそうです。酪農をやろうと思ったはっきりとしたきっかけはないそうなのですが、大学の時から農業と経営をやりたいと思っていたとのこと。村田さんは初め、北海道中標津町で実習を行いました。道東に比べ地価の安い道北で就農したいと考え、道北の数々の町を回った結果、中頓別町の景色と人柄の良さに惚れ込み、中頓別町への就農を決めたそうです。しかし、そんな村田さんが中頓別町に就農するまでには、たくさんの方の困難がありました。

第一に、中頓別町では今まで新規就農者の受け入れ経験がなかったこと。村田さんが中頓別町を訪れた時はまだ新規就農者受け入れ体制が整っておらず、就農先もなかったため、就農できるかわからないと言われたそうです。しかし、村田さんはそれでも中頓別町に就農したいと頼み込み、町やJA、地域の農家さんたちの力を借りて、就農するに至ったそうです。現在の中頓別町では村田さんが就農したことを機に、新規就農者の受け入れ体制を整え、今後はよりスムーズに受け入れを行えるとのことでした。

第二に、村田さんに限らず、新規就農者全般に言えることは資金面に関することです。酪農を始めるには多額のお金がかかります。村田さんは就農時に町とJAから資金の貸出を受けました。中頓別町では村田さんが就農するのに合わせ、低金利での資金の貸出を行う支援制度を作ったそうです。また、村田さんは町やJAだけでなく、北海道農業公社が行う農場リース事業を利用しました。農場リース事業とは、新規就農者支援、離農跡地の有効活用を目的として、公社が取得した離農農家の農場・施設などを整備した後、新規就農者に一定期間貸し付け、その後譲渡するというものです。しかし、農場リース事業では離農から就農までの期間に差が出てしまう場合が多く、村田さんも前の農家さんが亡くなった農場を

---

就農先としたので、牛はおらず、施設の改装も必要でした。その差をなくすため、中頓別町では離農を考えている農家さんのもとの、新規就農者に1年ほど実習を行ってもらい、その後経営移譲する第三者継承を進めていこうとしています。しかし、農場リース事業、第三者継承ともに、北海道の農家さんたちは農地に住居を設けているため、経営を辞めた後もそこに住み続ける人が多く、新規就農者がなかなか入って来られないという欠点があります。中頓別町では、今後その対策も考えていかなければならないとのことでした。

第三に、就農者の多くは就農時に技術不足を感じるそうです。村田さんは、中標津町で2年間の実習を行い、中頓別町では約1年半、3ヶ月ごとに実習先を変え、7軒の農家さんのもとの実習を行いました。それだけの実習を積んでいたことから、村田さんは就農時、自分にも出来るという過信があったそうですが、実際に就農してみると思っていたのとは違い、出鼻をくじかれたと言っていました。その言葉から、どれだけ実習を行っていても就農時に技術不足を感じることは避けられず、また技術は就農してから時間の経過とともに身につけていくものなのだろうと思いました。しかし、就農前の研修は多くの町で必須条件となっており、中頓別町でも新規就農を考える人には、2年間町内で研修を行なってもらうことにしているそうです。研修は技術の習得の他に、就農者が地域に溶け込めるようにする狙いもあるそうです。中頓別町では研修生がより地域に溶け込み易いように、また地域全体で研修生を支援していこうという思いから、2年間の研修期間中にいくつか研修先を変えてもらい、複数の農家さんのもとの実習を行ってもらうようにするそうです。

村田さんにとって酪農は初めての挑戦であり、中頓別町にとっても新規就農者の受け入れは初めてのことでしたから、数えきれないほどの苦労があったと思います。しかし、村田さんは町やJAを始め、地域の人々からたくさんの支援を受け、みんなに良くしてもらったことから、中頓別町に就農して本当によかったと言ってくれました。その言葉は、中頓別町出身者の私にとっても、とても嬉しいものでした。

中頓別町では現在、新規就農者支援体制を整えています。肝心の新規就農者が来ないことにはそれも意味をなしません。そのため、JA中頓別町では今年から宗谷管内の他のJAと協力して、宗谷に新規就農者を呼び込もうとポスターを作り、東京や道内の道の駅などにそれを貼るなどして誘致活動を行なっています。多くの人が宗谷に興味を持ってくれることを望んでいます。

### 3. 私の夢

今回、私は故郷である中頓別町の新規就農について調べることで、中頓別町の酪農の厳しい現状を知りました。そして、それを知ると同時に、私には一つの夢が出来ました。それは中頓別町の酪農を守りたい、ということです。幼い頃から身近に牛がいて、それが当たり

---

---

前だと思って育ち、これからも町にはその当たり前の景色がいつまでもあり続けると思っていました。しかし、今農家戸数は減り続けており、もしかしたら将来、この当たり前の景色が見られなくなってしまうのではないかと怖くなりました。だから、この景色を私が守りたい。そう思ったのです。

その夢実現のために、私は酪農業を支える側になりたいです。酪農に興味を持ち始めてから、自分も酪農家になりたいと思っていましたが、今回新規就農について知ることで、自分が就農するよりも、新しく酪農を始めようとする人が就農しやすいような、既存の農家さんが経営をしやすいような、そんな環境づくりをしていきたいと思うようになりました。そんな仕事がしたくて、現在就職活動を行っています。実際にどのような仕事に就けるかわかりませんが、中頓別町の、北海道の、さらには日本の酪農を私が守っていきたいです。そして、いつか北海道が酪農家の方々にとって、酪農を始めたいと考える人々にとって、よりよい環境に出来たと感じられた時、私も故郷で就農したい。それが私の夢です。

また、私のこの文章を読み、誰か1人でも中頓別町に興味を持ってもらえたなら、私は夢実現のための第一歩を踏み出せたと言えるでしょう。

---